

ティーチングポートフォリオ

美術学部 美術表現学科 佐々木輝子

1 教育の責任(教育活動の範囲、何を担当しているか)

教育活動の範囲として美術表現学科美術・工芸コースの科目を担当している。
科目名は以下の通りである。

- ・スタディスキルズ(大美1年)
- ・工芸基礎Ⅰ(大美1年)
- ・工芸基礎Ⅱ(大美1年)
- ・染織Ⅰ(大美2年)
- ・染織Ⅱ(大美2年)
- ・染織Ⅲ(大美3年)
- ・染織Ⅳ(大美3年)
- ・卒業研究Ⅰ(染織)(大美4年)
- ・卒業研究Ⅱ(染織)(大美4年)
- ・美術特別講義Ⅰ(大美1年)
- ・キャリア開発Ⅰ(大美2年)
- ・キャリア開発Ⅱ(大美2年)

2 教育の理念(育てたい学生像、教育の目標)

学生たちには、一連の染織工程を習得し、染織作家、繊維関連企業等でも活躍でき人材に育って欲しいと考えている。

教育の目標は以下の通りである。

- ・染織作業に必要な幅広い知識と表現力を修得する
- ・目的に応じて素材選択、使用する織機の種類を判断し、適切な道具・薬品を使用する力を身につける
- ・伝統工芸の一端を担う仕事ができるよう、染織の歴史的背景とこれからのニーズをとらえて、作品に反映する

3 教育の方法

講義では繊維素材、織の三原組織、薬品の取り扱い（廃棄方法含む）、染料、ウィービングレコードを用いた織物設計等を行っている。

実技では綴織の基礎、綴織の応用、糸の扱い（精錬、総分け、糸の浸染法）、ノッティング、絣糸の制作、プレゼンテーション等で授業を進めている。

制作は、木杵、卓上織機、高機等を用いて作業を進めている。講評会では使用した糸の性質や素材別による伸縮性の違い等について意見を述べてもらう。

4 教育の成果

授業での課題制作だけでなく、学内のコンクールや個展・グループ展への出店等を通して学生の制作の幅が広がっている。染織の学びを更に深めるために、テキスタイル研究所へ進学し、北欧留学後、伝統織物を広める仕事に従事する卒業生もいる。

大学での学びを通し、現在宮城県芸術協会に所属し、活躍している作家もいることから美術教育を通して文化的な地域貢献の一端を担うことができている。

5 教育の改善と今後の目標

これまでは染めの領域についても授業内で展開してきたが、令和7年度から織技法にフォーカスして授業内容を再構築した。3年次からは卒業研究を見据え、大型の織機での制作を促すようにした。自身の作業量を把握すると共に、素材選択や用途を理解した上で織物制作に取り組むことができるよう、今後も授業の改善を図りたい。